

県道会津高田・会津坂下線の西にある土地である。
水田 四反八畝一五歩

〔境界分〕

出向(現 境界分)

境界から流れ出る「出川」の向かいにあるのでこの名が生まれた。

水田 二反一歩、畑 五畝二八歩

〔境界分〕

下竹ノ花(現 檜ノ目新田二一五〇二一八・八九〇九四)

牛川堰の上で、県道会津高田・会津坂下線の東で、館西の東に位置していた。

水田 九反二六歩

牛川堰の開鑿

牛川堀と堰は、明暦二年(一六五六)河沼郡大井・牛沢・蛭河・船窪方面の灌漑用水が不足のため牛沢組郷頭佐原吉左衛門が、藩の援助と私財を投じ一方は権力をを用い、他方命を落とす程の決意と苦心を以て翌二年(一六五七)までに急ぎ開鑿した大用水堰である。

現代のような精密な測量機械とてなく、弓張り提灯に蠟燭をとぼして、土地の高低に目印を付けて測量を完成したと伝えられている。

沖中田(鶴野辺乙)

此村東西三町四〇間、西北一町五〇間、家居は箕の手の如にして乱住す。当村の建始りならびに沖中田村と名たる由来知らず、領堺隣郷は何れも御私領にて同郡也。〔高田組郷頭田中家文書・寛文五年(一六六五)書上げ〕

「奥州会津新鶴村誌」には、会津合戦記や四家合考にみえる芦名の臣鶴浦甲斐守の館跡で、もと中田の館と呼び、時代は芦名盛氏の時代かとも伝えられていると書かれている。

奉仕免(現 木戸東)

一部に「法印田」と云われる免租地があり、一帯を法師免と呼んだ。何時の頃からか坊主免・奉仕免と変わったと云う。耕地整理のときに「木戸東」に編入された。

八幡 乙九一九〇二一七四(現 沖中田)

八幡太郎義家軍が陣屋を置いた所と云い伝えられている。

八幡向 乙一〇二八〇一(現 沖中田)

八幡太郎義家軍と対峙した安部貞任軍が布陣した所と伝えられる。

下油田 乙一九四七〇一〇一九七七〇一

(現 沖中田)

安部貞任軍撤退に際し八幡太郎義家軍の追撃を防ぐため、油を撒いて放火した跡と云われている。